

(前ページからの続き)

お知らせを各学校で配布していただき、調整して、6月ぐらいから取り組み始めています。

この活動の年間のまとめとして、今年度は、2月末か3月初めに、その発表会を都立八丈高校か公民館で行いたいと考えています。今まで、会場

費やスタッフの費用に使われていた予算が、子どもたちの後継者育成に使われることとなります。従来から様々な援助をいただけてきましたが、こうした趣旨をご理解いただき、ご協力のほどよろしくお願いいたしません。

## <9~12月のイベント情報> (協会主催・後援、加盟団体主催・出演等)

協会の主催・後援イベントや加盟団体の活動を中心に掲載しました。詳細は協会ホームページおよび「Faxメール通信」をご参照ください。

### <9月>

21日(土)、22日(日) 「今日も嫌がらせ弁当」上映会  
各日の、14:00からと19:00から おじゃれホール

### <10月>

5日(土) あびの実子ども招待公演「ミュージカル・ヘンゼルとグレーテル」  
(あびの実・協会共催) 三根小体育館

6日(日) 之津帆の会日本舞踊発表会 おじゃれホール

26日(土) ピティナピアノステップ(協会後援) おじゃれホール

26日(土) 27日(日) いけばな小原流八丈支部花展(協会後援) 町民ギャラリー

26日(土) 27日(日) 24時間チャレンジ八丈太鼓 底土船客待合所

### <12月>

22日(日) 八丈ウインドオーケストラクリスマスコンサート(協会後援) 八高視聴覚ホール



# 八丈島文化協会 会報 第30号

八丈町三根4869-1 八丈島文化協会事務局 Tel/Fax 2-2833  
HP: <http://www.8jobunka.jimdo.com/> e-Mail: [bunkakyoukai8jo@yahoo.co.jp](mailto:bunkakyoukai8jo@yahoo.co.jp)

2019年9月6日 発行

## 八丈島 JAZZ フェスティバル 2019 を終えて

8月23日、24日の2日間、「八丈島JAZZフェスティバル2019」がおじゃれホールで行われ、大盛況の中、無事、終了しました。

クラリネット奏者・谷口英治さん率いる「谷口英治クインテット」による23日の「プロ・ステージ」には159人のお客様にご来場いただき、大好評でした。

特に盛り上がったのが町歌演奏。ブルース調、ジャズ調など3パターンものアレンジを披露くださり、アンケートでは「ぜひこれを防災無線に!」との声も複数聞かれました。ラストには中高生との共演も。5人のプロミュージシャンによる一流のライブを鑑賞し、一緒にステージに立たせてもらった

ことは、子どもたちにとってかけがえのない経験になったのではないかと思います。

この日は飲食しながら楽しめるスタイルで、八高生有志が企画から調理、販売までを手掛けたフードスペースも、用意したものがすべて完売になりました。お買い上げいただいた皆様、ありがとうございました。

翌24日の「アマ・ステージ」にはのべ517人のお客様にご来場いただきました。過去6回と比べても

とも多く、JAZZフェスが夏の一大イベントとして定着してきたことを実感しました。

小学生のアンサンブルからスタートした第1部では各校吹奏楽部や音楽部が表現力豊かな演奏、歌声を披露しました。この日の2部のゲストである谷口さんとテナーサクソ奏者の吉本さんも客席で子どもたちの演奏を聴いてくださったのですが、谷口さんからは、都会の部活動の大人数の吹奏楽とは違う良さ、少人数だからこそ子どもたちが考  
(次ページへ続く)



俳優館による「あびの実」子ども無料招待公演

## ミュージカル「ヘンゼルとグレーテル」

日時：2019年10月5日(土) 午後3時開演(午後2時半開場)

会場：三根小学校体育館

お父さんとお母さんにさらわれて森に迷い込んだヘンゼルとグレーテル。二人が森の奥で見つけたのは、お菓子でできた家でした。でもそれは森の魔女の魔法の家……

毎年実施している「あびの実」の子ども無料招待公演。今回は遠く名古屋の地から「俳優館」をお招きします。題材は誰もが知っているグリム童話「ヘンゼルとグレーテル」。勇気と愛と家族と魔法の物語をミュージカルとして描きます。

<お問い合わせ>

090-5817-3266 [abinomi8jo@yahoo.co.jp](mailto:abinomi8jo@yahoo.co.jp)



## 映画「今日も嫌がらせ弁当」上映

以下のように、映画界を行います。大勢の方々の参加をお待ちしています。

日時：9月21日(土)・22日(日)、午後2時・7時 上映時間：106分

場所：町役場おじゃれホール

料金：大人前売800円・当日1000円、

高校生以下500円(小児でも座席を使用する場合は有料です)

販売所：雨森商店, 八丈書房, 大志堂, 八丈町商工会(八丈島フィルムコミッション), 富次朗商店

主催：映画「今日も嫌がらせ弁当」を八丈で観る会、

八丈町商工会、八丈島フィルムコミッション、八丈島文化協会

後援：八丈町、八丈島観光協会

—誘い合っておいでください—

(前ページからの続き) え、演奏し、音楽を楽しめる良さがあり、感銘するものがあったという旨のお言葉をいただきました。

2部では、社会人と中高生が6月から合同練習を重ねてきた6曲が披露されました。演奏曲は各校の子どもたちが選び、照明等の演出プランはCJPが中心になって考え、司会も子どもたちが担当しました。合唱曲「Belive」では大中音楽部ともコラボ。事前クリニックで谷口さんに2日間のご指導をいただいた「Make Her Mine」とクラリネットソロが印象的な「Memories Of you」の2曲は、谷口さん、吉本さんのお二人とも共演もさせていただきました。アンコールはJAZZフェスの定番曲「宝島」。客席と一体になって盛り上がりました。

八丈島JAZZフェスティバルは、この催しを通して、子どもたちがたくさんの経験をいろいろな人と



一緒に歌ってみたい方はお気軽に団員に声をかけていただければ幸いです。(代表 山下 巧 記)  
交流し、未来にはばたいていくことを願って開催されています。今回のフェスでもCJPやフードメンバーはもちろん、CJP以外の中学生が宣伝に加わったり、全員でポスター掲示を分担したり、八高写真同好会が記録係を担当したり、運営部分にも多くの子どもたちが関わりました。アンサンブルで出演した小学生や客席で鑑賞していた島の子どもたちを含め、JAZZフェスでのこの夏の経験が、子どもたちにとって、少しでも、成長の糧になれば嬉しく思います。

最後になりましたが、補助事業として支援していただいている八丈町、趣旨にご賛同いただきご協賛いただいた島内企業をはじめ、出演校の顧問の先生方および保護者の皆様、当日の運営に携わった舞台・会場・駐車場スタッフの皆様にお礼を申し上げます。そして、島外の学校に異動になったにもかかわらず、実行委員長を続けてくださり、合同練習やミーティングのたびに自費でご来島いただき、今まで通り中心になって引っ張っていただいた小泉雅一先生にも心より感謝しております。

これからも「子どもたちによる子どもたちのためのJAZZフェス」を継続できるよう、事務局長として頑張りたいと思います。ありがとうございました。

八丈島JAZZフェスティバル実行委員会事務局 長 山下久美子

## 会員紹介…八丈混声合唱団

八丈混声合唱団は、結成して30年、八丈島文化フェスティバルと共に歩んでまいりました。来年は30周年記念コンサート予定しております。10年毎の節目に記念のコンサートを開き、今後の励みとして来ました。クラシックに無頓着な私は、皆の足を引っ張ってはいけな仕事に子育てに追われながらも、一番苦手な分野ですが休まず参加してきました。結成からこの間に200名を超える方々が入団し転出しましたが、今でも交流をもって島外演奏会でお会いしたり、八丈の練習日に教室を訪ねて来てくれています。嬉しい限りです。

八丈混声合唱団は、声楽家の菊池加代子先生が八丈へ嫁いで来た時から始まります。当時は、本格的声楽サークルはありませんでした。島の人は一芸に關けた方が島に移住すると、音楽に限らず何かを学ぼうと仲間作りをして習おうとします。これは江戸時代の島の風習かもしれません。加代子さんは音楽文化を島民に広めたいと教室を開放し、無報酬で長年情熱をもって指導をして頂いております。

「大切なのは音楽を通じて人と人が縁をつなぎ、音楽が人生の潤いとなることを目指すもの」と話したのは、発起人の故金城雅子先生でした。集まった人たちそれぞれの人柄にひかれ、音楽以外に学ぶことも多く、それで長く続けているものと考えています。これからも八丈島と所縁の作曲家團伊玖磨先生の作品を歌い継ぎ、全国で開催されるコンサートに遠征し、その仲間たちに八丈にも来て頂き、少しでも音楽が島の活性化につなぐ活動になればと思っております。



2019. 02. 11 文化フェスにて

## 2019年度から、芸能文化祭が変わります

### 日常的な芸能活動に参加した子供たちの発表の場に

今まで文化協会主催で5回実施されてきた八丈島芸能文化祭は、島の芸能や文化を発表したり、芸能や文化を基に劇仕立てにしたりして、島民の皆様喜んでいただけて来ました。

しかし、実際に運営をしていくためには、実施するための話し合い(実行委員会の組織と運営)、出演者やスタッフなどの人的な体制、おじゃれホールを使うための会場や予算の確保といった問題があり、かなりの負担になっていました。

こうした反省をふまえ、また、八丈には八丈太鼓をはじめ多くの有名な芸能があるにもかかわらず、その継承が危ぶまれているという現実を目の前にして、何とかしなくてはならないのではないかとということで、新たな機軸を打ち出そうということになりました。

昨年7月に、北大東島から子ども達の太鼓グループが八丈島で公演し、八丈島の子どもたちも協力出演しました。北大東島は、かなりの予算を組んで事業を支援しているということでした。八丈島では、協会もそうで



子どもたちのようす(よされ会)

したが、町も含めて組織的な支援はしておらず、個人の努力に委ねているだけであり、特に子どもたちに目を向けるという視点もあまりなかったように思われます。ただ、各団体とも、後継者となる子どもたちへの関心はかなり高いものがありました。

そこで、今年度は、日常的に練習をしている各地域の芸能団体に、子どもたちが参加した場合、その参加費の支援と、受け入れた団体には指導支援料として、文化協会が予算的な支援を行うことにしました。

5団体ほどから了解がとれましたので、募集の(次ページへ続く)